

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

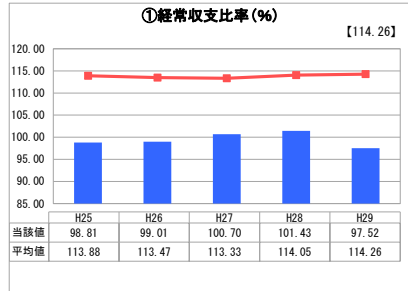
熊本県 上天草・宇城水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	用水供給事業	B	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	83.98	37.77	0	

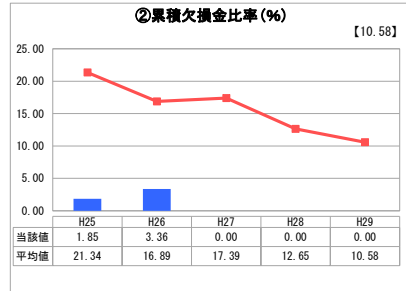
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
77,757	285.92	271.95

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

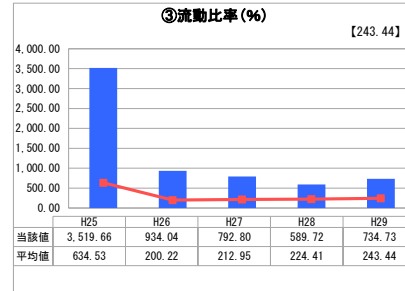
## 1. 経営の健全性・効率性



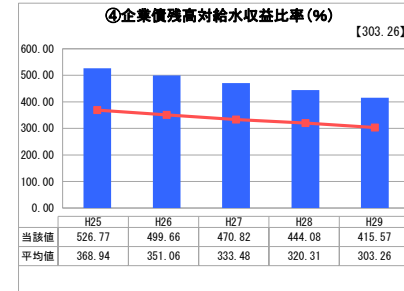
「経常損益」



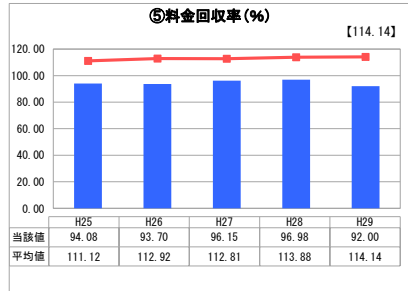
「累積欠損」



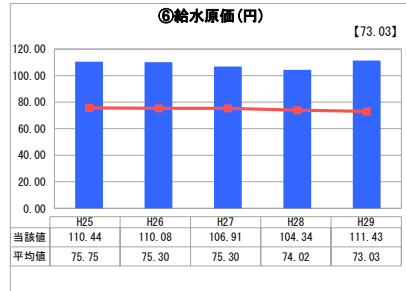
「支払能力」



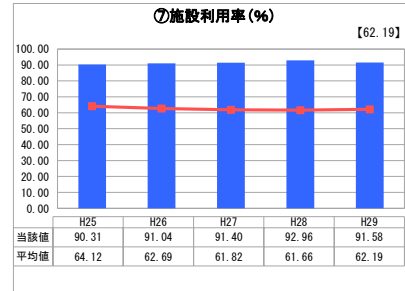
「債務残高」



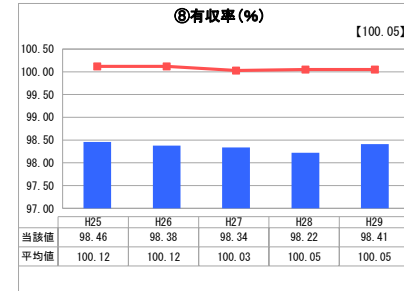
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

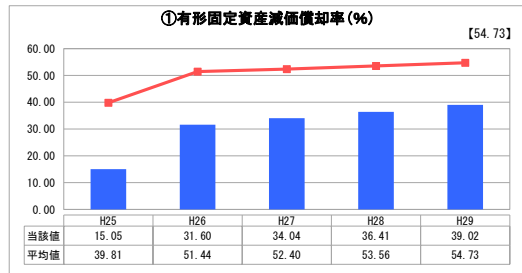


「施設の効率性」

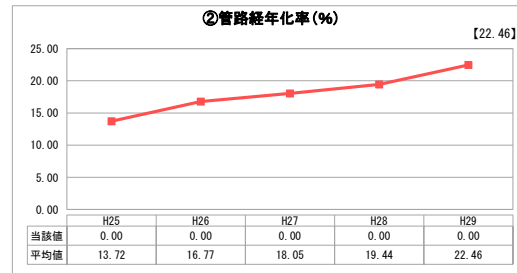


「供給した配水量の効率性」

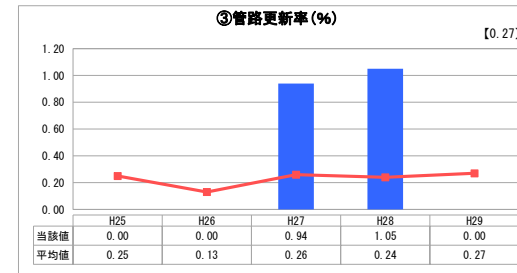
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

平成29年度の経営状況としては、累積欠損比率は0となっているものの、経常収支比率が97.52%と100%を下回り、赤字経営に転換した。短期的な支払能力を表す流動比率は734.73%と100%以上であることから、短期的債務に対する支払は十分対応できると考えられる。料金回収率は92.00%と、100%を下回る状態が続いており経営に必要な費用を料金で賄うことができない経営状況であるといえる。施設利用率については、91.58%で平均を上っており、効率的な施設運営ができてきているといえる。(その反面、施設能力に余裕がないともいえる。)

### 2. 老朽化の状況について

平成16年2月の供給開始から15年以内であり、送水管については老朽化の該当はない。今後は、平成28年に策定した「更新基本計画（電気・計装・機械）」に基づき設備改良及び更新事業を実施し、適切な施設の維持管理・運営を行っていく。

### 全体総括

「経常収支比率」及び「料金回収率」の数値が示すように、3条予算による利益を生むことができず、資金確保が不十分といえる。今後は、「更新基本計画」に基づき設備改良及び更新事業を確実に実施し、安定かつ健全な事業経営を維持するため、平成29年度に策定した「経営戦略」を基に料金改定に取り組む必要がある。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。